

令和6年度学校関係者評価

知徳GP		育成するための活動	育成状況の把握に係る指標・取組	R6実績	評価	学校関係者評価委員会の意見
自律	自己肯定力 乗り越える力 (レジリエンス) 主体性	・HR、相談室他 ・総探「知徳スタディラボ」 ・進路(進学、就職)指導 ・授業、HR ・相談室、SST講座 ・生徒指導交通指導 ・生徒指導生活指導 ・図書館利用推進・居場所づくり ・スタディサプリ活用	・学校が楽しい生徒80%、学校に困ったことや悩みごとを相談できる人がある生徒70% ・探究的学び(知徳スタディラボ、課題研究他)の実施と検証 ・納得のいく進路選択ができた生徒90% ・授業マナー(チャイム着席、机をそろえる、けじめの挨拶、相互リスペクト)を守った生徒85% ・SEL教育(SST講座、できたことノート)実践、個別指導計画の作成と運用 ・交通事故、自転車指導件数の前年度比減少 ・問題行動、指導カード発行数の前年度比減少 ・「より気軽に立ち寄れる図書館」に向けた取組。生徒の居場所づくりと利用の促進 ・スタディサプリを活用して学習している生徒60%、大進70%(該当学年)	79% 実施 93% 85% 実施 8件101枚 22件36名 実施 55%	A	・生徒一人一人の課題に応じた相談や個別の指導体制が確立され学校生活を楽しんでいる生徒の様子が受け止められる。 ・学校生活のあらゆる機会をとらえ、生徒間、また教員とのコミュニケーションの場を多く設け自己理解、他者理解の場づくりを進めていることは評価できる。 ・安全教育を通じて生徒に寄り添い問題行動の早期対応に努めている ・生徒は、高校受験の際の偏差値の輪切りの進路指導で、自己肯定力が下がっているのではないかと通信制高校の教員に話を聞くと、高校で興味があることを見つけると、飛躍的に行動力が増して、成長できる生徒が出てくるとのことである。今や大学受験も年内入試で6割以上が入学する時代である。探究を活用した総合型選抜や、年内入試の2科目型の学力試験や受験科目数を絞った一般選抜で、より偏差値の高い大学に入学することも可能になってきた。三島から都内の大学に通う学生も多い。上級学校への希望を持って勉学に励んでもらいたい。 ・生徒が抱える悩みや問題について学校全体で取り組もうとしている姿勢が感じられる点が素晴らしいと思います。 ・制服着用違反が多いのならば、制服そのものを廃止することも考慮すべきである。制服指導が管理教育のシンボルになっているような気がする。
		・総探「知徳スタディラボ」 ・保健指導：感染症対策 ・HR、学年、生徒会活動 ・授業、HR ・地域ボランティア活動参加 ・清掃等指導、生活指導 ・防災訓練等 ・創造デザイン科：地域依頼 ・部活動 ・地域や外部と連携した学び	・探究的学び(知徳スタディラボ、課題研究、SEL他)の実施と検証 ・病気の予防や対応を学ぶ機会の提供により、関係意識が高まった生徒90% ・学年やHRの友人と協力して活動することができた生徒80% ・授業マナー(チャイム着席、机をそろえる、けじめの挨拶、相互リスペクト)を守った生徒85% ・地域・社会貢献活動に参加した生徒70% ・ごみの分別ルールを守り、身の回りの整理整頓ができた生徒80% ・地域と生徒の実態に応じた防災訓練、生徒の防災意識向上に向けた取組 ・創造デザイン科：依頼事業に参加した生徒の経験を還元する機会の設定 ・部活動加入率70%、複数部活動のブロック大会・全国大会出場 ・外部講師講座、地域異世代との交流事業、奉仕活動、小学生プログラミング講座、知徳キッチン等	実施 81% 88% 85% 49% 89% 実施 実施 66%、達成 全部実施		・地域や外部機関との連携・融合した活動が認められ、地域や他者へのリスペクトを醸成するとともに職業観や人生観を耕す絶好の場になっている。 ・地域と共にある学校としての存在感を示している。 ・今や越境教育が企業や学校でも活発になっている。価値観や立場が違う人と積極的に交流することで、相互リスペクトなどの共生の力が醸成される。校内のコンフォートゾーンだけにいることで、生徒も教職員も「井の中の蛙」になる。静岡県東部は今後10年間で15歳人口が4割減少する。私立高校は学校の存亡をかけて学校改革を進めなければ生き残れない。厳しい環境変化に気付かず「ゆでガエル状態」になっているような気がする。来年度からの高校無償化が大きなチャンスである。受験生や保護者のニーズを捉えた学校改革をすることで、公立高校との差別化を図り、生徒数増加に繋げたい。そのためには、まず教職員の意識改革が必要である。 ・取り組み内容についてはとても良いと考えていますが、未達項目があります。
創造	考える力 行動する力 表現する力	・授業 ・進路指導 ・進学指導 ・授業等 ・福祉科授業等 ・進学指導 ・大進英語力指導 ・様々な学び ・私の意見発表 ・グローバルフューチャープログラム ・レタリング検定・色彩検定 ・創造デザイン科卒業制作	・授業の内容がよくわかる生徒80%24:35H2424:33 ・進路第一志望(3年4月時点)に就職、合格した生徒80%以上 ・国公立大・難関私大(GMARCH以上)・重点大学への合格前年比増 ・授業や日々の学習でiPadを活用している生徒90%以上(該当学年) ・介護福祉士国家試験の合格率100% ・進学希望でオープンキャンパスに参加した生徒の割合100% ・(大進)英検:1年で準2級合格100%、2年で2級50%、3年で2級100%かつ準1級1名 ・探究等を含む学習成果発表会の実施、外部発表会への参加 ・「私の意見発表」で、自分の意見を表現し伝えることができた生徒80% ・グローバルフューチャープログラムを活用して卒業後海外に行く生徒がいる ・レタリング検定1級合格3人、2級合格15人 ・卒業制作で見通しをもって計画を立て実行し、効果的に説明できた生徒80%	72% 95.4% 未+12 92% R5100% 100% 90%44%67% 実施 58% 1名 95%	A	・日々進化する情報機器を駆使し現代的な課題に取り組んだり、学び得た事柄を外部に対して情報を発信したり創造的な活動に取り組んでいる。 ・体験的な学びを通して実務を学びながら資格取得や検定試験に取り組んでいるのは個を確立するのに有効な取り組みである。 ・18歳人口の減少により、大学受験が易化傾向にある。生徒の学力進捗も必要であるが、進路指導部が大学受験市場の変化を的確に捉えることで、生徒の大学受験を有利に展開することができる。 ・探究は外部発表会を増やすことで、外部の識者と交流する機会を増やし、良い外部評価を受けることで、生徒の自己肯定力が上がると思う。 ・文部科学省は理系人材の育成を強化している。理農工学部の学生に対する給付奨学金も強化されている。大学での奨学金制度が充実してきているので、経済的に大学進学を迷っている生徒には、昨今の新しい奨学金の説明が必要なのではないか？ ・自身を持てばもっともっと変わる気がしました。 ・表現力育成の試みとして、全校生徒を対象に短歌、俳句、川柳等のコンクールを実施し【知徳賞】(仮称)を設けたらどうか。 ・取り組み内容についてはとても良いと考えていますが、未達項目がありますのでさらなる努力をお願いします。
		・募集 ・働き方	・R6入学者数を超える入学者(320人以上)の確保 ・BLEND導入による業務軽減、校務の効率化。デジタル化、BLENDより業務の負担が軽減された教職員70%	R7単287 63%	B B	・過去5年間の入学者数と退学者数の推移を知りたい。収入と支出のバランスを知りたい。私立高校の授業料実質無償化による学校経営の影響を知りたい。 ・重要な問題であると考えています。 ・校務の効率化により空いた時間が、生徒の成長に寄与できたかが課題である。

評価基準 A：十分達成(定着)できた75%以上 B：おおむね達成(定着)できた50～75% C：あまり達成(定着)できなかった20～50% D：全く達成(定着)できなかった20%未満